生産性向上人材育成支援センターでは、

中小企業等におけるDX人材の育成

を支援しています！

現在、社会環境・ビジネス環境の変化に対応するために、**企業や組織を中心に社会全体のＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）が進んでいますが、これに対応するためには、**年代・職種を問わず、働き手一人ひとりがＤＸに参画し、デジタル技術を活用したプロセスの改善や、**デジタルを活用しやすい組織づくりに取り組むことが喫緊の課題**となっています。そこで生産性向上人材育成支援センターでは、**生産性向上支援訓練カリキュラムモデルの中から「DX対応コース」を選定**し、中小企業・事業主団体等の**“DX人材の育成”を支援**しています。

ＤＸ対応コースの概要

生産性向上支援訓練カリキュラムモデルの中から、訓練目的・分野による分類とは別に、DX推進に向けたスタートコース、ネットワーク・セキュリティに関するコースを選定し、**共通領域**として設定、また、DXに向けた**３つの課題**を設定し、それぞれの課題解決に対応したコースを選定・分類しています。
ＤＸ対応コースには、受講者が原則として10名以上集まれば、訓練カリキュラムを自由にカスタマイズできるオーダーコースと、おひとりさまから受講できるオープンコースがあるので、状況に応じた受講が可能です。

共通領域

DX推進に向けたスタートコース
⇒DXの推進に必要な知識や導入事例を知りたい

ネットワーク・セキュリティに関するコース
⇒社内ネットワークのセキュリティ対策を進めたい

３つの課題

デジタル化と新しい生活様式の課題への対応
⇒自社業務に適切なITツールを選定したい
⇒POSシステムを活用して売上げを伸ばしたい　など

業務プロセスの課題への対応
⇒システム化に伴うコストの考え方を知りたい
⇒物流全体の最適化・効率化を実現したい　など

ビジネスモデルの課題への対応
⇒IoTによるビジネス環境の変化や動向を知りたい
⇒システム開発に必要な発注者の役割を理解したい　など

◎受講対象者
事業主の指示を受けた在職者の方

◎訓練日数・時間
概ね１～５日（４～30時間）

◎受講料（１人あたり・税込）
2,200円～6,600円
※ 訓練内容・時間により異なります。

◎訓練会場
オーダーコースの場合、自社会議室やポリテク等を会場とすることができます。
※ 自社で開催の場合、企業に講師を派遣します。
※ オープンコースはポリテク又は訓練実施機関が会場となります。

※ＤＸ対応コースは、裏面をご覧ください。

訓練受講までの流れ

≪オーダーコース≫

問題や課題の整理	センター担当者が企業を訪問し、生産性向上に係る企業が抱える課題やニーズをお伺いします。
訓練コースのコーディネート	相談内容を踏まえて、課題やニーズに応じた訓練コースを提案します。

≪オープンコース≫

コースの設定	センターが県内の動向やニーズに応じた訓練コースを適時設定します。
募集・応募	適時、ＨＰやＤＭで周知しますので、メール又はＦＡＸでお申込み下さい。

訓練受講　所定の期日までに受講料の支払い等の手続を行い、訓練を受講してください。

JEED らしく、はたらく、ともに
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 山梨支部
ポリテクセンター山梨　生産性向上人材育成支援センター
〒400-0854　山梨県甲府市中小河原町403-1
TEL：055-242-3066
ポリテク山梨　生産性
（生産性センター紹介ページへ）

～生産性向上人材育成支援センター(生産性センター)は、事業主の皆様の生産性向上に向けた人材育成を支援しています～

(2025.04)

生産性向上支援訓練

ＤＸ対応コース一覧《全61コース》（2025年4月現在）

●共通領域＜DXを学ぶ最初の一歩・基礎＞

ＤＸ推進に向けたスタートコース　《4コース》

117 DXの導入　119 DXの推進　126 DX人材育成の進め方　129 製造分野におけるDX推進

ネットワーク・セキュリティに関するコース　《8コース》

021 IoT導入に係る情報セキュリティ
057 ネット炎上時のトラブル対応
099 社内ネットワークに役立つ管理手法
116 情報漏えいの原因と対応・対策
040 eビジネスにおけるリーガルリスク
098 ワイヤレス環境に必要となる無線LANセキュリティ
115 脅威情報とセキュリティ対策
125 テレワークに対応したセキュリティ対策

● 3つの課題＜3つの課題の問題解決に対応したコース　スキルアップ！

	デジタル化と新しい生活様式の課題への対応《１９コース》	業務プロセスの課題への対応《23コース》	ビジネスモデルの課題への対応《7コース》
生産・業務プロセスの改善	009 POSシステムの活用技術 056 ITツールを活用した業務改善 091 企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解 092 企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント 095 ビッグデータ活用 055 RPAを活用した業務効率化・コスト削減 096 RPA活用 083 テレワークを活用した業務効率化 088 テレワーク活用 120 データサイエンス入門 130 経理事務の効率化につながるDXの実践	007 在庫管理システムの導入 016 物流のIT化 013 流通システム設計 014 物流システム設計 012 卸売業・サービス業の販売戦略 018 クラウド活用入門 020 クラウドを活用したシステム導入 054 クラウドを活用した情報共有能力の拡充 093 IT新技術による業務改善 094 AI(人工知能)活用 090 失敗しない社内システム導入 087 導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用	015 3PLとSCM 017 SCMの現状と将来展望 019 IoT活用によるビジネス展開 089 データ活用で進める業務連携 118 ベンダーマネジメント力の向上
横断的課題	122 テレワーク業務における労務管理		022 IoTを活用したビジネスモデル 121 ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合
売上げ増加	123 オンライン営業技術	027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善 028 統計データ解析とコンセプトメイキング 046 インターネットマーケティングの活用 036 プロモーションとチャネル戦略 047 チャンスをつかむインターネットビジネス 029 顧客分析手法 045 顧客満足度向上のためのCS調査とデータ分析	
ＩＴ業務改善	103 効率よく分析するためのデータ集計 104 ピボットテーブルを活用したデータ分析 105 品質管理に役立つグラフ活用 106 表計算ソフトを活用した統計データ解析 114 SNSを活用した情報発信 124 オンラインプレゼンテーション技術	107 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化 108 データベースを活用したデータ処理（基本編） 109 データベースを活用したデータ処理（応用編） 110 データベースを活用した高度なデータ処理	